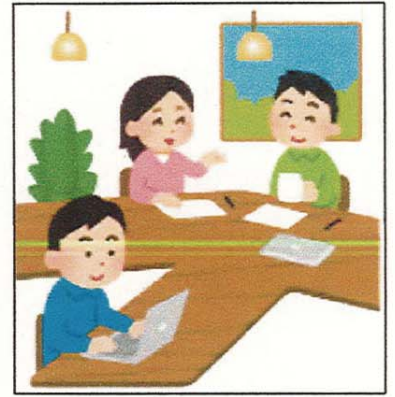


いのちの授業

～感想～

頂

羽津中学校3年学年通信第15号(2021.11.17)



『いのちの教育』

11月11日(木)の5、6時間目に、いしが在宅クリニック理事長の石賀丈士先生に講師として来ていただき、人権教育の一環として、『いのちの教育』をしていただきました。

講演の内容としては、まずクリニックを始められた経緯として、認知症になった家族と10年以上生活を送ってきた経験や、医学部生だったときの実習で苦しんで亡くなる患者さんにショックを受け、変えたいという思い。そして、自分の家で最期を迎えたいと考えている人の割合が多いにも関わらず、実際には家で看取られる人の割合は数パーセントであること。こういった現状を変えるためには大都市からではなく、地方にクリニックをつくり、発信していこうということで、出身の大阪ではなく、四日市で開業されたそうです。クリニックは、現在スタッフ50人で運営されており、これまでに5000件以上、現在も700件も在宅医療に関わっていて、年間の看取り数が400件を超え、日本一の数だそうです。そして、一番石賀先生が伝えたかったこととして、最近は自宅で家族を看取ることが減り、大人でさえ「いのち」についてわかっていないことを挙げられていました。また、なぜ人を殺してはいけないのかといった疑問が中学生の疑問のランキング上位にあるのは、看取りの経験不足によるものだと先生は考えられていました。そこで今回の講演では実際に関わってこられたご家族の話を、写真やテレビに取り上げられた動画を使って紹介していただき、私たちは「いのち」の終わりに、人はどんな状態になっていくのか知り、「いのち」の尊さを感じることで一日一日を充実させて過ごす重要性に改めて気付くことができました。後半では、地球の環境を守ることが地球上の生き物の「いのち」を守ることにつながること。そのために個人で意識できる例を示してくださいました。各クラスの感想を紹介します。



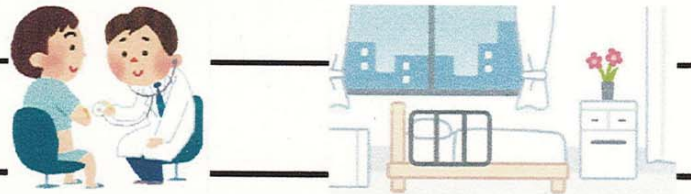
1組

自分も実際にひいおじいちゃんが亡くなる時に一緒にいて、静かに亡くなっていくところを見て、すごくうれしそうな顔をしていたのを覚えています。今、家で最期をむかえたい人が多いけど、実際には病院で亡くなる方が多いというのを聞いて、やっぱり苦しんで死ぬよりも気持ちよく死ねるのが一番なんだなと思いました。在宅クリニックというすばらしい取り組みをもっと広めて、より多くの人が自分の望む方法で亡くなるというのが何よりも大切ということを学びました。環境問題についても二酸化炭素を減らすというのは簡単じゃないけど少しずつ進歩していったほしいなと思います。

命ってというのは人を喜ばすこともできて悲しませることもできるというのを VTR を見て思いました。最後に孫の女の子が「おばあちゃん」って言ったときにとっても胸が苦しくなって、このおばあさんはこの先女の子の成長を見ることができないと思うと、涙が出そうになりました。今日の授業で、自分の命だけでなく家族や友人の命も守っていきたいと、とても思いました。そして地球温暖化もコアラが悲鳴のような鳴き声をあげているのをきいて、人という動物だけでなく他の動物たちも助けてあげたいと思いました。

石賀先生が最近の子ども達はおかしい。命の尊さを本当にわかっていないと言っていたけど、正直私自身「人を殺す」ということに興味をもつのはおかしいことだと気づいていたけど、興味を持ってしまったり、講演を聴く前には人が一人死ぬのって人口がたくさんいるんだからたいしたことないんじゃないか？とかやばい考えを持っていたけど、ガイアの夜明けの VTR を見て、自分の考えの愚かさと一人一人の命の重さが改めて心に残った。本当にこの講演を聴いてよかった。

2組



生物に死はつきものであり、生きている生物が他の生物を嘆いたところでその生物が生き返る訳でもなく、またその人の供養にもならないと思うので、これからは死について怖いものであるとか、つらく悲しいものであるという価値観で見えていくのはやめて、生きている間にその人をどう喜ばせるかとか、自分がいざ死を前にしたとき、後悔があまり残らない様な人生を送ることができたか、と死を「今の」自分の終点として捉え「今の」自分が後悔せずすんなりと逝ける様な人生を歩んでいきたいと思った。

私の祖父が石賀先生にお世話になり、「看取り」についてはよく知っていて、石賀先生がこういった活動をされているのかを見てきたので、石賀先生って本当に凄い人だなと感じた。「命」の大切さを今日改めて知ることが出来て良かったと思ったし、「命」の大切さを知っているからこそ、声をあげていかないといけないと思いました。最後になりましたが、石賀先生ありがとうございました。

家族などが亡くなるのを実際にみるのは辛いけど、自分が死と向き合える機会になるんだなと思った。もし、自分が誰かの死を見届けるときは、自分に出来ることを最後までしたいと思った。また、いしが在宅クリニックのような活動が日本中に広まって誰もが理想どおりの最期をむかえられるようになってほしいなと思った。



3組

「命ってなんだろう」と考えると、やっぱりよくわからなくて、まだまだ知らないことだらけだなと思いました。自分は身近な人が亡くなったことがないので「死」というのにあまり実感がありません。なので、今回の授業を聞いて、死ぬことは怖いことかもしれないけど、楽しく生きてきた最後だと思って、これから生きていきたいです。毎日を大切に友達、家族を大切にしたいと思います。1日を一生にしたいと思います。

在宅で最期をむかえる方が少なくなって病院での治療などは苦しめているということにつながっていると聞いてびっくりしました。自分の祖父が倒れてしまったときに「病院に行きたくない」と言っていたそうで、やっぱり最後まで家で楽にいたいのだろうなと思いました。祖父は少しずつ回復していっているので安心だけど、今日映像で見たように家族みんなで出かけるなど少しでも良い思い出をつくっていきたいと思いました。

石賀先生の話聞いて、改めて現代の死の悲しさを知ることができました。病院で何本もの管につながれて、一秒でも長く生きるより短くても楽しく安らかに亡くなる方がいいなと私は思いました。また、職や人生という点では8時～17時の勤務で他の趣味に費やしていたり、施設に遊び心があったりするのとはとてもいいなと思いました。



4組

僕もどちらかと言うと、家で死にたいとは思っていましたが、そのように思っている人の半数以下が理想通りに死ねないという事実で悲しくなりました。今後、いしが在宅クリニックのような福祉業が増えてくれたらいいなと思います。地球温暖化のことについては、牛のゲップや、永久凍土の融解による新たなウイルスの影響のすべては人間が引き起こし、それが今、自分たちに回ってきているのを実感しました。この講演で「命」の2つの意味を改めて理解することができました。

命って尊いなと思った。家族に見守られて、慣れ親しんだ家で最期をむかえる、みんなそうしたいに決まっている。だけど、それができないのが現実ということをはじめて知った。石賀先生は、患者さんに対して不安を持たせないことがすごいと思った。それは本当に信用・信頼されている人にしかできないことだと思った。自分もそんな、人に不安を与えない、信用・信頼のある人になりたい、なろうと思った。命の大切さ、地球のはかなさ、しみじみと感じた授業だった。



今まで病院で治療した方が良いと思っていたけど、それは本人の意思でないなら正しくないといわかった。点滴などをした方が本人も楽だと思っていたけど、それも間違いだと知ることができた。今日学んだことは、これから家族や親せきが病気にかかったときに話し合えないといけないことだと思う。また、そのとき私は、病気になった人の意見を再優先にしたいと思った。人が亡くなることについて知るのも怖いけど、知らないのも怖いと思った。環境について今の地球がそんなに危機な状況だと知って驚き、ショックを受けた。今の自分に何ができるのかしっかり考えて、自分の未来やこの先生まれてくる子たちが生きていけるような行動にしていきたい。



5組

最初、石賀先生がおっしゃっていることがわかるようでわからないなと思いました。それも自分たちが「死」を知らないからで、考え方が違うんだろうなと思いました。私は「死」を間近に感じたことがなく、今回映像で見れて、悲しいとも思ったし、こんなにも身近にあるものなんだといい経験になりました。道徳などでやる「命」を学ぶこととは比べものにならないくらい、聴けてよかったと思える「命の授業」でした。

自分の周りのひいおじいちゃんやひいおばあちゃんは病院で亡くなっているので、家で見守りながら、お別れをしたことがありませんでした。今日の講義をきいて、ひいおじいちゃんが息子たちに見守られながら死にたいといっていたことを思い出しました。生きることは当たり前のことだと思っていたけど、亡くなってしまうのは一瞬なので、後悔なく生きていきたいと思いました。

知らなかった内容がたくさんあって、おどろいたこともたくさんあったけど、今回の授業で地球におよぼすことや、今、危険なことを犯していることなど、これから先快適に暮らすにはどうすればいいか考えさせられました。また、病院で治療をしながら亡くなっていくよりも場所を変えるだけで寿命が延びたり、気持ちが上がったたりなど、人間にとってとても大切であることが分かりました。



石賀先生、お忙しい中、ご講演いただき本当にありがとうございました。